

軍用道路許すな！ 11.18北富士闘争に参加して (T支部青年部・S生)



烈々たる決意を表明する忍草農民。生活を守る戦いは戦争を阻止する闘いと完全に一体のものだ。

日刊 勤労千葉

84. 11. 26

No. 1801

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)
(鉄電)二九三五・六 (公衆)〇四七二(22)七二〇七

「たとえ胴体が裂かれても……」
——忍草農民の闘魂——

ここは、東富士軍用道路建設予定地である。県・公団は、松丸尾の両側、梨ヶ原と土丸尾の立木伐採を終え工事に着手している。最大の焦点が、この松丸尾の入会林の伐採攻撃なのだ。

集会では、三里塚反対同盟の北原事務局長、敷地内の市東さん、島村さんらが発言され、北富士の勝利と三里塚二期阻止の闘い決意が述べられた。

動労千葉からは、新藤副青年部長が、「軍用道路のために、農民の生命たる入会地が奪われることなど断じて許せない。三里塚―国鉄決戦勝利にむけて、『第二の81・3』を準備し、中曽根打倒にむけて闘いぬく」と決意を明らかにした。

主催者である忍草入会組合、忍草母の会の決意は、「たとえ胴体が裂かれても、この身を立木に縛りつけて闘う」というすさまじいものである。集会は、いやがうえにも盛り上がり、熱気と気迫に満ちたものであった。

忍草農民の生命＝入会地を軍靴で汚させるな！

北富士闘争とは、忍草農民が、父



機動隊が警戒態勢を敷く富士吉田市内を、忍草母の会を先頭に意気高くデモ行進。

祖伝来の入会山を守る闘いであり、同時に自衛隊の北富士演習場不法使用を許さず全面返還を勝ちとっていく反戦・反基地の重要な闘いである。松丸尾は、米軍の入会地不法使用に対し、一九五五年、忍草農民が米軍のカービン銃の阻止線を農耕馬に乗った「騎馬隊」の突撃をもって突破し、着弾地を実力占拠し実弾演習を中止させた決死の闘争によって取りもどした貴重な入会地なのである。



1本1本がわが生命、わが子、として育てあげた立派な赤松の林のなかで、集会はかちとられた。

正念場を迎えた11・18北富士現地闘争に、青年部十三名の代表で決起した。全国総決起集会は、松丸尾という赤松林のなかで開かれ、忍草入会組合、忍草母の会を先頭に、全国から五二〇名が結集して開かれた。

の間で立木売買契約をデッチあげて伐採を強行しようという攻撃にでている。入会組合は、11月1日に「立木所有確認」の裁判をおこし、軍用道路建設阻止・演習場全面返還にむけて反撃を開始したのだ。

この松丸尾を軍用道路建設のために、国や県が勝手に立木を切り倒すなどということは絶対に許されない。正義は農民の側にあり、敵にあるのは、無法と国家暴力と金の力だけだ。



45年間、不屈の闘いの先頭にたたつ天野入会組合長。

天野さんの決意をわがものに
私は、現地集会のなかで最後に発言された入会組合長・天野重知さんの決意に感動した。

四五年間にもわたって、入会権確立と演習場全面返還のために、米軍と自衛隊に対し生命をかけた農民ゲリラとなって闘いぬき勝利している姿に、労働者・人民のあるべき姿を見た。不屈・非妥協・実力闘争こそが、どんなに闘いが厳しくともかならず勝利を切り拓く路線であることに確信を深めた。

今日、国鉄労働者こそが、この天野さんの決意をわがものとすべきだと痛感した。

私にとって、そして参加した青年部のおそらく皆んなにとって、この日の決起は実に有意義であり、参加者は自己の飛躍の糧とした。

北富士闘争勝利！ 三里塚二期阻止！ 「60・3」大合理化阻止！ 国鉄10万人首切り攻撃粉碎！ 中曽根打倒にむけて闘いぬこう！ (了)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ